

令和3年11月教育委員会会議録

【会議に付すべき事件】

議案第16号 「令和3年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果」について
報告第20号 社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について

【その他】

《11月分》

生涯学習推進課【煉瓦館・公民館・総合体育館 他関係団体】事業予定
図書館【熊取図書館 他関係団体】事業予定
小・中学校行事予定

《9月分》

生涯学習推進課【煉瓦館・公民館・総合体育館 他関係団体】事業報告
社会教育施設等利用状況

日 時 令和3年11月5日（金）午後5時00分から
場 所 役場北館3階 大会議室

【教育委員会定例会出席者】

教育長	岸野 行男
教育委員（教育長職務代理者）	梶山慎一郎
教育委員	鈴木 直子
教育委員	一ノ瀬由美子
教育次長	阪上 敦司
理事（学校指導担当）	林 栄津子
理事（生涯学習・図書館担当）	原田 哲哉
学校教育課長	三原 順
学校教育課学校指導参事	松藤 茂孝
学校教育課学校指導参事	櫻澤 彩香
学校教育課学校指導参事	松本 歩
生涯学習推進課長	立石 則也
生涯学習推進課生涯学習参事	大屋 真志
図書館長	原田 貴子
書記	藤原 健祐

岸野教育長

それでは、ただいまから令和3年11月教育委員会定例会を開催します。

本日の署名委員は梶山委員を指名します。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

当日配付の議案書9ページ、議案第16号「令和3年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果について」事務局から説明願います。

櫻澤参事、お願いします。

櫻澤参事

それでは、当日配付分の9ページをお開きください。

議案第16号「令和3年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果について」です。

令和3年5月27日に実施された令和3年度全国学力・学習状況調査の分析結果を、別添令和3年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果とすることについて承認を求めるというものです。

今年度の学力・学習状況調査の熊取町の分析につきましては、90ページにわたる分析結果となっております。大変たくさんのボリュームなのですが、主に概要について説明いたします。

それでは、資料の番号でいかせていただきたいと思います。ブロック体のページ数をご覧ください。

まず、1ページ、2ページについては実施要項を載せさせていただいております。調査の教科につきましては、今年度は小中学校とも、国語、算数、それから質問紙調査というふうになっております。問題の形式としましては、平成31年度より基本的な知識を問う問題と応用問題を一体的に問うという形式に変更されております。

それでは、順に各教科等について見ていきたいと思います。

3ページ、4ページには、令和3年度の調査及び結果の特徴を書かせていただいております。おおむね、今年度は昨年度が実施できなかったため2年ぶりの実施となりました。また、小学校においては、新学習指導要領が全面実施されてからの初めての調査となっております。

今回の結果から、これまでの調査で見られた課題について改善傾向が見られたものもある一方、複数の文章や資料を結びつけて必要な情報を見つけることや、日常の事象を表、式、グラフなどを用いて数学的に解釈したり説明したりすることなどについては、依然として課題

があるというふうに考えられます。

表のほうに、各小学校、中学校、それぞれ国語と算数の課題が見られるもの、おおむねできているものをまとめております。

4 ページをご覧ください。

4 ページのほうの表には、中学校の分が整理されております。

全国の各設問の平均正答率や正答数分布の状況などが明らかになったものでありますけれども、これらのことにつきましては、熊取町と全国、大阪府との間で若干の差はあるものの、おおむね同じ傾向になっております。

熊取町の平均正答率を全国の結果と比較すると、教科ごとに言いますと、国語は若干下回るという結果、算数は上回るという結果になっております。大阪府と比較した場合には、小学校においては国語、算数とも上回った状況、中学校では、国語は府と同程度、数学は上回ったという状況になっております。

それでは、5 ページをご覧ください。

まず、小学校の国語です。先ほども申しましたとおり、小学校の国語平均正答率につきましては全国平均を下回った状況、それから大阪府平均は上回った状況となっております。平均の無解答率につきましては、全国や大阪平均よりも低いという状況になっております。短答式、記述式の問題においても、全国や大阪府と比べて無解答率が低い問題が多く、児童が学んだことを生かして問題に取り組んだ結果と考えております。

レーダーチャートを見ていただきますと、全国、大阪府の状況とおおむね同じ傾向というふうに見られます。

それから、正答数分布につきましても、最初のグラフにあるように、山の傾向としては、おおむね同じような傾向にあるのかなと思います。

課題となった問題ですけれども、書くことの領域においては、やはりまだ少しの課題が残っているように感じております。特に、レーダーチャートにもありますように、書くことにつきましては、その領域では、全国、大阪府の正答率を下回ったという状況になっております。

課題となった設問、具体的な設問については、7 ページから 9 ページにかけて載せさせていただいております。

この問題の趣旨、設問の趣旨につきましては、目的や意図に応じて理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き著し方を工夫するということが測られる、その力が測られる問題になっております。

正答と解説につきましては、その下に載せさせていただいておりますが、幾つか条件を与えられた書く問題の中で、条件を満たして書くというところに課題が見られるのかなというふうに感じております。

学習指導にあたってというところでは、教員の先生方に読んでいただいて、そういった課題を認識し、どのように学習に生かしていくかというところを参考になるように書かせていただいております。この問題に関しましても、話し手が話合いの中で話していた事例を具体的に書くことで説得力が高まるんだというところを指導していただく先生方にも認識していただきながら、授業の中で改善を進めていただきたいところだと思っております。

13ページをご覧ください。

②児童質問紙との関連性のところです。

児童質問紙の中に国語に関する質問がありました。そこの関連性を見ていたところ、子どもたちの質問紙の回答につきまして、「全ての書く問題で最後まで解答を解こうと努力した」という質問に対して、肯定的な回答をした割合が、全国、大阪府を上回ったという状況であります。子どもたちは、何とかして問題に向かい、自分の考えを書こうとする姿勢が見受けられたと考えております。ただ、一方で「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように書いたり表現を工夫したりして書いたりしていますか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国や大阪府を下回ったという結果になっております。ですので、書く意欲はあるんだけど、うまく書く書き方が分かっていない児童が多いのかなと思っております。そういったところを課題と捉え、表現力の向上に今後も授業の中で努めていただきたいというふうに思い、ここに書かせていただいております。

続いて、小学校算数です。

熊取町の平均正答率は、全国平均、大阪平均を上回る結果となりました。また、無解答率につきましても、全国平均、大阪府平均より低く、児童が既習事項を活用して問題に取り組んだと考えております。

14ページのレーダーチャートをご覧ください。

領域別の傾向としては、全国や府とおおむね同じような傾向になっておりますが、データの活用や変化と関係、測定、数と計算の領域については、少し、目に見えて分かるように上回っているような状況であります。

それから、最初のグラフを見ていただいて分かるように、熊取町は

上位層の割合、11問以上の正答した子どもの割合が、若干大阪府や全国よりも高い傾向にあるのかなというふうに思っております。

課題となった設問につきましては、15ページに述べさせていただいておりますが、図形の問題で、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題が出されております。ここについて、子どもたちの解答が、若干課題が見られたというところです。ここにおきましても、やはり幾つか書かなければならない要素が抜けていたり、説明が足りなかったりというところで、正答になれなかったということが確認されております。

16ページの一番下の行にあるように、正解に解答するためには、指定された底辺に対して高さに当たる長さがどこなのかを複合図形において捉える必要があるというところから、底辺に対しての高さがどんな位置づけになっているかというところが、子どもたちの中で理解できていなかった子どもがいるのかなというふうに思っております。また、理解していても、必要な言葉を用いて表現するというところにも課題があるのかなと思っております。ですので、学習、授業の中でも、算数の用語を活用しながら表現活動を行い、そういった表現方法を系統立てて行っていく必要があるのだと思っております。

②番の児童質問紙との関連性についてです。17ページです。

算数についての質問について「算数は好きですか」とか、「大切だと思いますか」「分かりますか」という質問に対し、肯定的な回答が、全国や大阪府と比べて高いものだと思います。

また、算数の授業で学習したことが、将来、社会に役立つと思えますか、生活の中で活用できないか考えていますかという質問においても、肯定的に回答した生徒のほうが正答率が高かったというふうになっております。

そのほかにも「分からないときは諦めずにいろいろな方法で考えますか」とか、「公式や決まりと習うとき、その訳を理解するようにしていますか」「ノートに自分の考えが分かるように書いていますか」という質問についても、こちらについても肯定的に回答した子どもたちのほうが、正答率が高いということになっております。

いずれについても、算数に対して子どもたちは肯定的に捉えている、さらに肯定的に回答する子どもたちが、この学習状況調査の結果、正答率が高い結果となっているということに結びついております。これ

は、小学校の先生方が、日々算数の学習の中でいろいろ工夫を凝らして授業改善をしていただいた結果かなというふうに思っております。今後もそのような学習指導が進められるよう、こちらでも支援してまいりたいと思います。

続いて、18ページ、中学校国語です。

中学校の国語の平均正答率は、全国平均を下回り、大阪府平均とほぼ同様の結果となりました。ただ、平均の無解答率につきましては、全国や大阪府よりも低く、生徒が諦めずに問題に取り組んだ結果と考えております。

レーダーチャートの形につきましても、おおむね全国、大阪府と同じような傾向にあるかと思えます。ただ、熊取町では全ての領域、話すこと、聞くこと、書くこと、見ること、それから伝統的な文化と国語の特質に関する事項について、全ての領域で全国平均よりも少し、若干低い結果となっております。

グラフを見ていただいても、10問以上の正答をした子どもたちの数というのは、ほかの全国や大阪府の折れ線グラフより若干低いかなという感じになっております。

課題となった設問につきましては、20ページ、21ページに載せさせていただいております。設問の趣旨につきましては、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかを見るという問題になっております。

20ページをご覧ください分かりますように、今回はメールでのやり取りというような形の場面設定の中で、相手に効果的に伝わるようにどう書けばいいのかということが測られております。

やはり、ここで、もうこの設問においても幾つかの条件を満たして書くということになっておりますが、やはり条件を満たし切れないというところに課題が見られるのかと思っております。与えられた目的とか場面、状況を捉えて、正しく捉えて適切に書くという指導が今後必要になってくるのかなと感じておるところです。

②、23ページの②には、平成30年度調査との比較を書かせていただいております。平成30年度の小学校6年生のときと今回中学校3年生のときの調査結果を比較したものです。

平成30年度の6年生のときの平均正答率については、全国、大阪府を下回った。活用問題につきましても、大阪府とほぼ同じような状況でした。

領域別に見てみると、平成30年度もやはり書くことにおいて課題

が見られております。ただ、府との差につきましては、若干詰めてきている状況なのかなというふうに感じておりますので、今後もさらに自分の思いを表現する活動を授業の中に取り入れていただきたいなと感じておるところです。

23ページの③の生徒質問紙との関連性についてです。

国語に関する質問に対しての肯定的回答につきましては、中学校のほうでは大阪府とほぼ同じ、あるいは全国を下回るというような状況になっております。ただ、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答する生徒の割合については、全国、大阪府を上回った状況になっております。こういったことから、やはり子どもたちは積極的に学習に取り組もうとしている様子が伺えるかと思えます。ただ、その子どもたちの持っている力を十分に発揮できるよう、やはり授業の中で子どもたちの学びを深めていかなければならないかと感じております。

24ページをご覧ください。

中学校の数学の結果です。中学校の数学では、平均正答率が、全国、大阪府平均を上回る結果となりました。平均無解答率も、全国、大阪府より低い状況となっており、特に記述式の問題全てにおいて、全国平均、大阪府平均より無解答率が低い状況になっておりまして、生徒が既習事項を活用し、問題に取り組んだ結果と考えております。

レーダーチャートの描くラインにつきましては、全国、大阪府と同様の形を示しております。熊取町においても、数と式、それから関数の領域において、全国、大阪府より高い傾向となっておりました。

正当数分布のグラフ、最初のグラフを見ていただきましても、若干中ほど、9問目から12問目あたりのところが全国や大阪府より高い水準となっているのかなというふうに思います。

課題となった設問につきましては、26ページ以降に載せております。

この問題の説明の趣旨は、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを測っております。やはりここでも全ての条件を満たして書くというところで正答にならなかった部分がありました。

指導にあたってでは、やっぱり日々の授業において、データを活用しながらどんな言葉を使って表現していくかということを繰り返し学んでいく必要があるのかな、またそれを表現して意味のあるものになっているかどうかというところを、やはり子どもたちが実感として捉

えられるような授業展開が必要になってくるのかなと考えております。

28ページの②30年度との調査の比較です。

今の中学3年生が6年生のときの全国学力・学習状況調査では、評価の観点の数学的な考え方、あるいは問題形式の記述式で大阪府や全国を下回るという結果になっておりました。ですが、今年度の調査では、評価の観点全てで、大阪府、全国よりも高く、問題形式においても短答式、記述式で大阪府、全国より高い結果になっております。これらのことから、算数・数学の授業の中で主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が進み、思考力、判断力、表現力が子どもたちの身についてきていると考えております。

③の生徒質問紙との関連性です。

数学について好きであるとか大切だ、内容がよく分かるという質問に対して肯定的に回答した生徒のほうが、正答率が高い結果となっております。また、「数学で授業したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問では、約3割の生徒が、どちらかといえば当てはまらない、当てはまらないということと回答していることも事実として浮き上がってきております。また、「生活の中で活用できないか考えますか」につきましても、否定的な回答をしてる生徒が約半数というふうになっております。やはり、日常の事象の中で、自分、自らと数学を結びつけて考察したり処理したりする、学習を通して数学を理解していく、数学の意義を実感できるように声かけをしていくことも大切であると考えております。

こういったことを念頭に置きながら、学校のほうでまた授業改善を進めていけるよう支援してまいりたいと思います。

30ページからにつきましては、今まで説明したようなことをまとめて、今後の取組を加えて示してあります。

先ほどからもお伝えしているように、大きな課題としては、やはり書くこと、国語も算数も書くことに課題があるかなと考えております。ただ、子どもたちは、書こうとしている、向かい合おうとしている。だけど、条件が足りなかったり、使うべき用語を使えていなかったりというようなところがあるのかなというふうに感じております。そういったことをまた改善していけるよう、こちらも努めてまいりたいと思います。

続いて、36ページをご覧ください。

こちらには、5番、児童設問、生徒質問紙調査の結果と分析を載せさせていただいております。

36ページから40ページにつきましては、それぞれの設問について、前回調査、あるいは中学生が小学校6年生のときの質問紙調査との比較を矢印で表しております。新設の問題もあるんですけれども、下がった結果になっているところは斜め下、あるいは真下。上がったというところには斜め上、あるいは真上のような矢印で示させていただいております。

40ページには、それぞれの質問を8項目に分類しております。今年度につきましては、小学校、中学校とも全69問となっております。

その中には、国語、算数、数学に関する問題もありますが、この質問紙についてはこの最後のほうには載せております。以下の、その後の分析のところは、最初のところに載せておりますので、そちらをご覧ください。

41ページからは、小学校の児童質問紙調査のグラフ、それから64ページからは中学校の生徒質問紙調査の結果のグラフを載せさせていただいております。

これらのデータを基に87ページから文章に記させていただいております。

87ページをご覧ください。

(4) 児童生徒質問紙調査結果の分析です。

①基本的生活習慣等を問うた質問についてです。

その最初の上から4行目の中ほどより、「毎日同じぐらいの時間に起きていますか」の質問に対して、小学校の肯定的回答は約9割あり、大阪府、全国よりもやや高い傾向にあります。中学校においても、約9割が肯定的回答を示しておりますが、大阪府、全国よりも低い結果となっております。

そのほかの項目につきましては、大阪府、全国よりも低い結果となっている質問もありました。

「新型コロナウイルスの感染症拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の肯定的回答は4割を超える程度であり、大阪府よりも高いという状況でした。ただ、全国よりも低い結果となっております。

また、その後、3つ目の段落、平成31年度から始まる場所ですけれども、朝食、就寝時間については、平成31年度については小中学校とも改善傾向でありましたが、今回の調査では、こういった基本的生活習慣に課題が見られた状況です。休校期間中に生活リズムが乱れた児童生徒が半数以上いることについても確認されております。

学校と家庭が協力すること、保護者がその基本的生活習慣の重要性を理解することが大切であると考えております。

②の挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等についてです。

6番の「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、小学校では肯定的な回答が7割程度、中学校では7割に届かず、大阪府、全国よりも低い状況となっております。平成31年度の結果と比較しても、減少しているという方向になっております。

88ページにおきまして、「将来の夢や目標を持っていますか」、この質問についても、小学校では約8割肯定的回答があつて、大阪府よりも高いんですが、全国よりも低いという状況です。中学校においては、大阪府、全国よりも低く、平成31年度と比べても低い結果となったというところを課題として認識しております。

ただ、質問項目8番の「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか」については、全国や大阪府よりも小学校では高い傾向にありました。中学校でも、大阪府よりは高い状況になっております。

また、10番、「人が困っているときは進んで助けていますか」という肯定的な回答の割合は、小学校では9割を超えて、大阪府や全国よりも高い傾向となりました。ただ、中学校では若干低いという結果になっております。31年度の結果と比較すると、小学校、中学校ともに若干ではありますが増加しているというふうになっています。

その下の「いじめはどんな理由があつてもいけないことだと思いますか」については、小中学校とも90%以上いけないことだというふうに認識しております。ただ、31年度と比べると若干減少しているというところですね。小学校、中学校ともに、どちらかといえば当てはまらない、当てはまらないという回答をしている児童生徒もいるという事実が分かりましたので、やはりこちらの児童生徒への対応は今後の課題かと思っております。

その下の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問において、小学校では96.6%になっておりました。中学校においても90%肯定的な回答をしているんですけども、大阪府や全国よりも若干低くなったという回答です。引き続き、学校行事等、自分を見直す機会であるとか、達成感を味わうというようなことを、引き続き学校の行事のほうを通して子どもたちの心を育んでいきたいなというふうに思っております。

89ページにいきます。

③の学習習慣、学習環境等です。

質問項目の17番になるんですが、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」というような回答です。こちらのほうでは、全国、大阪府よりも、小学校では大阪府よりも高く全国よりも低いということで、中学校も同じように大阪府よりも高く全国よりも低いという形になっております。ただ、前回調査との比較では、小学校、中学校ともポイントが高くなっているというところで、家庭学習が定着しているのかなというふうに捉えているところです。

中ほどの「あなたの家にはおよそどれぐらいの本がありますか」という質問ですが、これは今回初めて出てきた質問です。この質問について、学力とのクロス分析において、小中学校とも家にある本の冊数が多い児童ほど教科の平均正答率が高いという傾向が見られました。学校もそうですけれども、家庭内での学習環境等も、子どもたちの学力に影響していることが明らかになったなと思っております。また、学校におきましても、家庭学習を自分の力で自主的に進めていくような、子どもたちが意欲的に進めていけるような取組が必要かなというふうに感じております。

④の地域や社会に関わる活動の状況等についてです。

24番、25番の項目に「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をするべきか考えることはありますか」という質問がありました。前回調査との比較では、両方とも、小学校では両方とも大幅に下がっております。肯定的回答が下がっております。新型コロナウイルスの状況があるのかなと思っておりますが、ただ、中学校においては「何をするべきか考える」というところの質問に対しては、ポイントが高くなったという状況にあります。地域の行事だけでなく、学校行事においても、中止であったり変更であったりというところが多かった昨年度です。その中で、どうすれば何ができるのかということ子どもたちは自分事として取り組んだ成果が、この質問紙の結果に表れているのかなというふうに感じております。今後もあらゆる教育活動の中で、発達段階に応じて、地域や社会の一員として子どもたちの自覚を育んでいく必要があると考えております。

90ページをご覧ください。

I C Tを活用した学習状況についてです。

昨年度までに受けた授業でI C Tを使ったかどうかの質問では、肯定的割合が3割程度、小学校では3割程度となっており、中学校では

4割程度となっております。小学校のほうでは、全国、大阪府より低い傾向となっており、中学校では高い傾向となっております。

その2つ下の「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」についての肯定的な割合は、小中学校ともに9割以上となっており、全国、大阪府と同程度となっております。

GIGAスクール構想に伴ってクロームブックが配備され、活用が始まっております。そういった活用の仕方が、今後教育活動の中で期待できるものと思っております。また、全ての学習の基盤となる資質・能力とされる情報活用能力を育成していくために、どの教科のどの場面で活用することが効果的なのかということを学校とともに研究し続ける必要があると考えております。

6番です。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況、あるいは総合的な学習の時間等についてです。

クロス集計の結果から、質問項目が長いのであれしますが、32番、33番、それから37番、38番の項目において、肯定的回答をしている児童ほど教科の平均正答率が高い傾向にありました。これらの質問は、まとめて言うと主体的に学習しているか、あるいは対話的に学習していますか、対話を通して友達と学びを深めたり広げたりしていますかというようなことになるかと思えます。やはり、このクロス集計の結果を見て、主体的・対話的で深い学びの授業を行うことが子どもたちの学びを育んでいくのに必要であるということが改めて確認されたところです。

本町の小学校におきましては、この32番、あるいは33番の肯定的回答が約8割で、全国、大阪府よりも高い傾向にありました。

一方、中学校でも、32番、33番につきまして、全国、大阪府よりも高い傾向になりました。

各校において、目当てを確認したり、対話を通して学びを深め、振り返りにより自分の学びを確認したりすることを大切に授業改善を進めている結果が現れつつあると考えております。

⑦番です。学習に関する興味・関心や授業の理解度等の英語の部分です。

「英語の勉強は好きですか」の質問に対して、小学校では肯定的回答が約7割となり、全国、大阪府よりも高い状況でした。中学校では、残念ながら5割に満たず、全国、大阪府よりも低い結果になりました。

「今までに受けた英語の授業で、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか」の質問については、全国、大阪府

よりも低いという結果になっておりました。また、小学校におきましては、「授業以外で英語を使う機会がありましたか」という質問では、小学校では肯定的回答が約5割で、大阪府よりも高い傾向でした。中学校では、全国よりも高く、大阪府よりもやや低い状況でした。これらのことから、小中学校とも授業等において、英語で自分の考えや気持ちを伝える機会を今後もっと増やしていく必要があると思っています。日常的に英語を使う機会については、小中学校とも全国より高い傾向にあることを考え、今後もALTを十分に活用し、英語に親しむ機会を増やしていきたいと考えております。

⑧は新型コロナウイルス感染症の影響についての質問項目となっております。

64番の質問項目では、「休校していた期間、勉強について不安を感じましたか」の質問に、5割程度が当てはまる、どちらかといえば当てはまるという回答をしている状況でした。また「休校期間中に計画的に学習を続けることができましたか」の質問については、小学校では6割、中学校では4割程度が当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している状況でした。

その下の「新型コロナウイルス感染症拡大で休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったときにどのようにしていましたか」の質問については、小学生では家族に聞いたの割合が一番高く、次いで自分で調べた、友達に聞いたという割合が高かったです。一方、中学校では、自分で調べたの回答が一番高く、続いて、家族に聞いた、友達に聞いたの回答の割合が高い状況でした。先生に聞いたという回答割合は、小中学校ともに6割程度の回答でした。今後の休校等に備え、オンライン、クロームブック等を活用したオンライン授業をどのように行っていくかということも、今後ますます検討していく必要があるのかなというふうに考えております。また、質問紙の回答結果から、やはり児童生徒の心理的な変化が学習面や生活面に見られることから、今後も学習の習得状況や心身の状況の把握に努めて、一人一人に寄り添った指導や支援、心のケアを継続的に行っていく必要があると考えております。

現在、各学校では、各学校の状況及び調査結果を踏まえて分析を行い、それを保護者に返しているところです。

今回承認していただいた後は、この分析結果につきましては、町の情報公開コーナー及び教育委員会の事務局に配架する予定です。また、ホームページには概要の形で公開するという方法を取っていきたいと

思っております。

また、併せて、この分析結果については、町長、副町長、議員の皆様にも配付する予定になっております。

随分長くなりましたが、承認いただきますようよろしくお願いいたします。

岸野教育長

ただいまの事務局の説明について、ご異議、ご質問等ありませんか。

梶山職務代理

大変、熊取の子どもたちの様子がよく分かって頑張っているように思います。

質問ということではないんですけども、特に中学校の数学なんかで、やっぱり日常にあまり役立たないんじゃないかと考えている子どもたちが多いというので、これは、教科そのものだけに注力してしまうとそういうふうに感じてしまう部分多いと思うんだけど、後からもご説明ありましたけれども、総合的な学習とか、そういうところで、そういう頭の使い方を勉強するのは、そもそも問題解決につながるんだよということをぜひお伝えいただければなというふうに思いました。書いたりするということもそうかなと。

あと、ちょっと質問なんですけれども、36ページからのところがありますけれども、今回新しく新設された設問がありますね。

櫻澤参事

はい。

梶山職務代理

そこで、差というところに数字が入っているんですけども、これは何を意味するのでしょうか。

岸野教育長

櫻澤参事、お願いします。

櫻澤参事

何かこのまま来てるんです。数式がそのまま入ってしまいまして、もしあれだったら抜いておいたほうがいいでしょうか。

梶山職務代理

そうですね。

梶山職務代理

数がね、71.6とか何かすごくベースに入っているの、どう計算したのかなと考えてみたんだけど、分からなかったの、聞いてみたんです。

櫻澤参事 恐らく、前はゼロとして肯定的回答の割合が入ってしまっているんだと思います。ただ、ゼロがあるところもそれがどうなのか。

梶山職務代理 前回はゼロにしてということですよ。

櫻澤参事 はい。なので……

梶山職務代理 その数自体が、71.6点というのかいうはどう計算されているんですか。

櫻澤参事 肯定的回答の割合がそのまま入っている……。

梶山職務代理 肯定的な分を合計したのですか。

櫻澤参事 はい。

梶山職務代理 なるほど。

櫻澤参事 それがそのまま入っているというふうに思いました。

梶山職務代理 はい、分かりました。ありがとうございました。

櫻澤参事 抜いておきたいと思います。申し訳ありません。ありがとうございました。

梶山職務代理 あとは、もう将来の夢や目標を持っていますかというのが少し下がっているのは、少し残念だなと思いますけれども、コロナの影響もあるのかなと思うので。

岸野教育長 はい。

林理事 将来の夢や目標については、ずっとやはり低い値なので、2年前に比較的ぐっと上がったかなというように思うんですが、少しまた戻ってしまったのか、コロナの影響もあるのかなというふうなところあるんですが、昨年度からのキャリアパスポートということで、小中学校

ではそういった取組を進めて、自分自身が何成長したかと子どもが確かめることができるような、そういったポートフォリオのようなものを活用して、今、やっているところですので、少しこれも向上していくのかなと期待したいなというところでございます。

梶山職務代理 多分そういうポートフォリオなんかで自分のことを考えたり、書いてみたりすると、ちょっと、夢、希望が持てるようになるかなと思います。

林理事 はい。

梶山職務代理 あと、英語で、学習のとき以外、あるいは授業以外で英語を使うことがありますかというのは、全国平均よりちょっと高いというのは、これはやっぱりALTの存在なんですか。

櫻澤参事 そうであればうれしいのですが。

梶山職務代理 分かりました。

林理事 英会話を習っている子どもさんもいらっしゃるというところもあると思いますが。

梶山職務代理 ああ、そういうことですかね。なるほど。

林理事 ただ、やっぱりALTの配置、近隣でもすごく高い配置いただいているので。

梶山職務代理 そうですね。いや、もしそれがプラスに出てるんだったらすばらしいなと思います。

林理事 はい。ありがとうございます。

岸野教育長 ほかにございませんか。

質問というわけじゃないんですけども、これだけいろいろ調査と
いうか、数値がやっぱり出てきますので、それをうまく苦手なところ
とか課題を整理していただいたんですけども、特に今年から主体的

な学びなど色濃く取り組んできていると思いますので、来年度以降、またその辺も注視していただければと思います。

他に質問ございませんか。

では、議案第１６号「令和３年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果」について、承認としてよろしいか。

委員全員

（「はい。」の声）

岸野教育長

議案第１６号「令和３年度全国学力・学習状況調査熊取町の分析結果」については承認とします。

次に、事前配付議案書１ページ、報告第２０号「社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について」事務局から説明願います。

大屋参事、お願いします。

大屋参事

それでは、報告第２０号「社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について」ご説明させていただきます。

議案書１ページになります。

社会教育施設の供用時間等につきましては、令和３年１０月教育委員会定例会報告第１８号により、１０月１日から１０月３１日までの間、２１時を超え開館している３つの社会教育施設について、大阪府からの営業時間短縮要請を受け、開館時間を２１時までとする専決処分についてご報告させていただき、ご承認いただきました。

その後、府内における新型コロナウイルス感染症の感染状況から、大阪府から要請のありました営業時間の短縮要請を１０月２４日までで解除するということになりましたので、供用時間を午後９時まで変更していた３つの施設について、再度変更し、１０月２５日から通常どおりの開館とする専決処分を行いましたので、報告し、承認を求めるものでございます。

内容につきましては、まず、１、変更時間に記載のとおり、公民館、町民会館、熊取交流センターの開館時間を午前９時から午後９時までとっていたものを、午前９時から午後１０時ということで通常どおりの開館時間に変更するものでございます。

その下、期間につきましては、先ほど申し上げましたとおり、令和３年１０月２５日の月曜日から。その下、変更理由につきましては、大阪府からの営業時間短縮要請の解除によるものでございます。

以上、報告第20号「社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について」のご説明とさせていただきます。

ご審議いただき、ご承認賜りますようよろしくお願いします。

岸野教育長

ただいまの事務局の説明について、ご異議、ご質問等はありませんか。よろしいでしょうか。

では、報告第20号「社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について」承認としてよろしいか。

委員全員

(「はい。」の声)

岸野教育長

報告第20号「社会教育施設の供用時間等の変更に係る専決処分報告について」承認とします。

以上で、本日の会議に付された審議すべき議案が終了いたしました。ほかに何かございませんか。

ないようですので、審議を終了します。

(その他報告事項)

岸野教育長

続きまして、その他報告事項に入らせていただきます。

それでは、順次事務局から報告のほうをお願いします。

林理事。

林理事

『小・中学校行事予定P. 105より説明』

岸野教育長

ほか、次は。

立石課長。

立石課長

『生涯学習推進課事業予定P. 2～P. 3より説明』

岸野教育長

次の案件。

原田館長、お願いします。

原田図書館長

『図書館行事予定P. 4～P. 5より説明』

岸野教育長

ありがとうございます。

報告は以上ですか。

ほかに何かございませんか。

ないようですので、令和３年１１月教育委員会定例会を終了します。
お疲れさまでした。

閉会 午後６時０６分
